

○ 本校の概要

<p>◆教育目標 ◎考える子 ○思いやる子 ○元気な子 ◎やりぬく子</p> <p>★目指す学校像 「よりよい学校教育がよりよい社会を創る」という理念のもと「チーム洗足池」として個々の教職員の学校参画意識を高め、組織的、協働的に教育目標の達成を図る学校</p> <p>★特色ある教育活動 ・校内研究「未来社会を創造的に生きる子供の育成」～「未来創造プログラム」作成のためのカリキュラムマネジメントを通して～ ・国際理解教育 ・スクールバンドの活躍 ・オリンピックパラリンピック教育 ・放課後算数クラブ ・土曜補習教室 ・読書タイム ・完全ノーチャイム ・25分間の休み時間 ・たてわり班活動 ・洗小江戸しぐさ ・夏休みわくわくスクール ・学校支援地域本部(スクールサポート洗足池)</p>
--

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	これまでの取組 今後の改善策	評価 人数	学校関係者記入欄 コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成を図っている。	12月に実施する保護者アンケート項目「望ましい人間関係を築けるようにしている」の肯定的回答の割合	4: 95%以上		A	
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	3: 85%以上	B			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	2: 75%以上				
		他人の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	1: 75%以下				
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	1: 75%以下				
各教科を通してコミュニケーション能力の育成を目指して指導の工夫を行い、言語活動の充実を図る。							
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	12月に実施する保護者アンケート項目「学習したことを理解している」の肯定的回答の割合	4: 95%以上		A	
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3: 85%以上	B			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2: 75%以上				
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	1: 75%以下				
		主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりを工夫する。	1: 75%以下				
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重するなどを育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守らうとする意識を高める。	11月に実施する児童の学習・生活アンケートの項目「毎日学校で生活することが楽しい」の肯定的回答の割合	4: 92%以上		A	
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3: 80%以上	B			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2: 70%以上				
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1: 70%未満				
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	1: 70%未満				
子どもたち一人一人が誰にでも明るく、元気に挨拶ができるよう指導を工夫する。							
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	12月に実施する保護者アンケートの項目「体力の向上と危険防止の方法を身に付けさせている」の肯定的回答の割合	4: 93%以上		A	
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	3: 80%以上	B			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	2: 70%以上				
		オリンピック・パラリンピック教育において、体験や交流活動を取り入れ、重点的に育成すべき5つの資質を育てる。	1: 70%未満				
		授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4: 60%以上				
授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3: 55%以上	B					
各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2: 50%以上						
校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	1: 50%未満						
経験年数・職層の異なる教員のペアを組み、メンターシップ研修を行うことで、メンターは学習指導力を、メンターは指導・助言の能力を高める。	1: 50%未満						
プラン6 学校・家庭・地域ともに家庭を育める・地域が一体となって	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	12月に実施する保護者アンケート項目「教育活動に地域の力を生かしている」の肯定的回答の割合	4: 95%以上		A	
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の発案等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3: 90%	B			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	2: 80%以上				
		東京工業大学・地域と連携した教育活動を充実させる。	1: 70%以上				

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。